

平成28年度 農山漁村振興交付金(都市農村共生・対流及び地域活性化対策) 事業実施主体 評価一覧

●地域資源活用対策及び人材活用対策

【(1)活動計画策定】 3件

農政局等	都道府県	市町村	事業実施主体名	事業実施段階					評価	評価コメント
				H28	H29	H30	H31	H32		
北陸農政局	新潟県	上越市	おぐる地域活性化協議会	●	○	○	○	○ □	A	協議会の構成母体である8集落の自治会の協力体制が良く、活動計画を策定するうえでの諸調査、活動を行う際の呼びかけ等がスムーズに行われており、計画していた取組のすべてが効率的かつ円滑に実施され、一定の成果を上げていると認められる。
北陸農政局	富山県	魚津市	魚津市食のモデル地域協議会	●	○	○	○	○ □	A	協議会内に「地域活性・文化継承」及び「伝統食伝承・直販市」の2つの専門部会を設け、各々の部会が計画に沿った体制及び役割分担で事業を行っており、計画していた取組のすべてが支障なく実施され、一定の成果を上げていると認められる。
北陸農政局	福井県	越前市	さかのくち活性化協議会	●	○	○	○	○ □	B	坂口地区の皆で話し合いながら活動計画の策定を進めることによって、一人ひとりが関わろうとしてくれており、設定をした数値目標には達しなかったものの、次年度につながる結果となっている。 今後も、交流人口や売上げの拡大に向けて、各種イベントの積極的な実施に努められたい。

(注1) 「事業実施段階」の凡例: ○・・交付対象年度(計画) ●・・交付対象年度(実施済) □・・目標年度(計画) ■・・目標年度(実施済)

(注2) 「評価」の区分: A、B、C (事業実績の内訳については、a、b、c)

【(2)子ども農山漁村交流】 2件

農政局等	都道府県	市町村	事業実施主体名	事業実施段階			評価	評価コメント
				H28	H29	H30		
北陸農政局	新潟県	十日町市	仙田創生協議会	●	○	□	A	事務局を中心に各構成員等がそれぞれの役割を果たし事業を実施している。受入体制の構築や地元住民の協力により田舎体験の受入人数が予定を上回る結果となっており、今後の受入人数の増加が期待できる。
北陸農政局	石川県	加賀市	南加賀地域子ども体験推進協議会	●	○	□	A	事務局を中心に各構成員がそれぞれの役割を果たし事業を実施している。本年度で協議会体制整備、受入体制整備、関係機関との調整を行ない、各構成員のスキルを高めた。また、PR活動も行ったため、今後は体験ツアー等受入数の増加が期待できる。

(注1) 「事業実施段階」の凡例： ○・・交付対象年度(計画) ●・・交付対象年度(実施済) □・・目標年度(計画) ■・・目標年度(実施済)
(注2) 「評価」の区分： A、B、C (事業実績の内訳については、a、b、c)

【(5)農山漁村の「食」を活用し観光と連携したグリーン・ツーリズム】 1件

農政局等	都道府県	市町村	事業実施主体名	事業実施段階			評価	評価コメント
				H28	H29	H30		
北陸農政局	福井県	若狭町	若狭町エコ・グリーン・ツーリズム推進協議会	●	○	□	A	事務局を中心に各構成員がそれぞれの役割を果たし事業を実施しており、女将との食開発の取組は新聞に掲載され反響も大きく、商品化も期待できる。更に、任意目標のインバウンド教育旅行の受入数では、取扱い件数が予定を上回る結果となり、今後の教育旅行の増加が期待できる。

(注1) 「事業実施段階」の凡例： ○・・交付対象年度(計画) ●・・交付対象年度(実施済) □・・目標年度(計画) ■・・目標年度(実施済)
(注2) 「評価」の区分： A、B、C (事業実績の内訳については、a、b、c)

【(6)農山漁村の地域資源と福祉を活用した「農」の取組支援】 4件

農政局等	都道府県	市町村	事業実施主体名	事業実施段階			評価	評 価 コ メ ン ト
				H28	H29	H30		
北陸農政局	新潟県	長岡市	北荷頃・一之貝・軽井沢集落連携促進協議会	●	○	○	A	実施体制は確立されており、数多くの事業をほぼ計画どおり実施し成果を上げていると認められる。
北陸農政局	新潟県	柏崎市	荻ノ島地域協議会	●	○	□	A	計画承認が遅れ一部の事業を自己資金で実施したが、目標は達成しており一定の成果を上げていると認められる。 H29年は早々に事業を開始しており、成果が期待される。
北陸農政局	石川県	津幡町	河北潟ハーブ文化協議会	●	○	□	A	農業と福祉の2つの法人を中心に運営されており、障害者が恒常的に農作業等に取り組み成果を上げている。今後は試作品の商品化や収益性のあるイベントを企画し売上げの増加に努められたい。
北陸農政局	福井県	あわら市	あわら・坂井のうふく連携協議会	●	○	□	A	実施体制は確立されており、計画された事業はほぼ実施し成果を上げていると認められる。

(注1) 「事業実施段階」の凡例： ○・・交付対象年度(計画) ●・・交付対象年度(実施済) □・・目標年度(計画) ■・・目標年度(実施済)

(注2) 「評価」の区分： A、B、C (事業実績の内訳については、a、b、c)